

# 東京桑野会会報

●2014年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-2 サンミビル7階 新神田法律事務所内

## 母校創立 130 周年記念号



No.36

《安積歴史博物館（旧本館）》  
画：母校美術科 檜村俊智（98期）



### ご挨拶

東京桑野会会長  
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

グローバル時代になって英語の役割が見直されつつある。小学校から英語を教えるべしとの気運が高まっている。一寸前までフランス人は英語を学ぼうとしなかった。フランス語こそ世界最高の言語であると信じていたからである。現在フランスでは英語を学び英語を話す人が増えている。英語が国際的コミュニケーションの共通言語となったからである。ツール、サイト、アプリなどIT用語も皆英語である。県立尋常中学校が火事のため福島市から桑野村に移転した後ネイティブの英語教師が配置された。英国人トーマス・ハ

リファックスである。彼の指導で後にイエール大学教授となる朝河貫一が外国への眼を開くことになった。しかし、日本人の10倍もの給料を払う財政負担のため県議会は僅か3年で彼を解雇してしまった。もし続いていたれば沢山の人材が桑野村から育ったに違いない。ハリファックスはその後長野尋常中学校（現在の松本深志高校）を経て朝鮮に渡り英語教師を続けそこで亡くなった。数年前私は友人たちと共にソウルの外人墓地に眠る彼の墓を訪れ感謝の気持ちを捧げて来た次第である。

## 東京桑野会平成 26 年度定期総会・ 母校創立 130 周年記念式典のお知らせ

今年が母校創立130周年記念の年です。東京桑野会では下記の要領にて式典を実施します。会員の皆様は、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

- 期 日 平成26年(2014年)6月21日(土曜日)
- 時 間 15:30(午後3時30分)～ 受付開始  
16:30(午後4時30分)～ 平成26年度東京桑野会定期総会・母校創立130周年記念式典  
17:00(午後5時)～ 記念講演(古川 清)  
演題:『朝河貫一と現下の国際情勢』  
18:00(午後6時)～ 祝賀会
- 場 所 目白の『ホテル椿山荘東京』  
[東京都文京区関口2-10-8]  
J R目白駅、または東京メトロ有楽町線江戸川橋駅 下車  
電話 03-3943-1111
- 会 費 祝賀会費 ¥8,000  
東京桑野会年会費 ¥2,000(合計 ¥10,000)  
116期以降の若手会員は、年会費・祝賀会費合計 ¥6,000  
学生につきましては、年会費・祝賀会費合計 ¥3,000

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席できない会員の皆様には、同封の振り込み用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で6月10日(火)までにご返送下さいますようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。

◇また、連絡もれがあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2013年5月31日(金)に開催され、来賓3名、一般会員111名、学生会員19名の総勢133名の参加がありました。

## 母校便り

☆母校は今年(2014年)、創立130周年を迎えます。母校の様子を母校からの情報から紹介します。

☆母校の学校長は、88期久保田範夫氏、教頭2名の内の1人は91期森和茂氏です。母校出身者が校長、教頭を務められるのは久々ですね。東京桑野会総会にはどちらから参加くださると思いますが、歓迎いたします!ちなみに森教頭が参加された2012年度の総会では、2次会は同期の皆々と痛飲!で、親友西田幸雄君の家に宿泊でした。

☆130周年の安積には様々な伝統行事があります。対面式もその一つ。自分たちの時は、ただただびっくり。最近、新入学の学年は、クラス毎に出しものというパフォーマンスというか、何かをやることになっています。129期生は、'ダンスを踊る' 'アルソック体操をする' 'エリマキトカゲの真似をする' 'なめこダンスを踊る' 等々。「一発芸を通じて胆力が試され、心の甘えを捨てるきっかけとなった」「初めは先輩の熱烈な歓迎に驚いたが安高独特の雰囲気がとても楽しかった」等を感じ、『来年の先輩としての対面式が楽しみ』となりました。俺ももう一度、やりてー。

☆対面式の後には恒例の「応援歌練習」ですね。127期(2014年3月卒業)の応援団長は、宗像祥穂さんでした。安積の伝統ある第65代応援団を、立派

世界をもてなす、日本がある。



HOTEL 椿山荘 TOKYO  
CHINZANSO

「椿山荘」と「フォーシーズンズホテル椿山荘 東京」は、2013年1月1日より「ホテル椿山荘東京」に名称が変わりました。

〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8 TEL: 03-3943-1111(代表) <http://hotel-chinzanso-tokyo.jp/>

に率いました。新入生の応援歌練習では、「初日は応援団長の指示にもどう応えてよいか分からず戸惑っていたが、日に日に顔つきも締まり歌声も大きくなってきた」とのことでした。「朝、女子が応援歌を大きな声で練習した」とは、嬉しそうな久保田学校長の談。そうだよな～、だって「声がちいせ～」と先輩、おっかないもん。もう一回、応援歌練習したい…（教える方で）。

☆応援団を支えるOB・OGの尽力で、応援団の衣装等も新調されました。2014年度の応援が楽しみです。ありがとうございます。

☆応援の楽しみと言えば硬式野球部ですが、安積の新しい伝統に加えられたのが、「硬式野球 安積・安積黎明定期戦」ですね。2013年は第7回となりました。結果は、安積0—安積黎明7で、零封負け、ああ…。通算で安高の4勝3敗です。

☆校舎の改修工事も様々実施中です。2013年度は理科棟の改修が行われました。1970年代に建てられた理科棟は、当時、高校としては県下最高の設備で全国に出しても先進的と言われま

した。それが経年によりいつしか安積高校の校舎・設備は、「(県の最古の歴史をもつ学校としては)どこに出しても恥ずかしい」とまで揶揄されるようになっていました。東日本大震災を経て改修が進み、より良い環境となることを期待しています。2014年度は続いて管理棟と理科棟の残り部分の改修が行われる予定です。

☆在校生は、勉強や部活でも頑張っています。卒業して関東の大学に進学したら、是非、東京桑野会に来てください。待っています。

## 会員消息

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。( )は期、逝去された日。

村上 延衛(旧姓武内)氏(41期)  
(平成25年9月3日)

荒木 正三(43期)(平成24年3月11日)

佐藤 初男(46期)(平成19年9月11日)

伊藤祐太郎(50期)(平成25年9月20日)

森本 一郎(旧姓太田)(55期)  
(平成24年8月27日)

酒井 三郎(57期)(平成24年4月)  
木幡 敬信(58期)(平成24年5月17日)  
小針 博和(59・60期)(平成24年5月31日)  
酒井 博夫(旧姓力丸)(61期)  
(平成24年)

谷本 法朗(63期)(平成25年11月27日)

山本 充朗(63期)(平成25年1月26日)

在原 友栄(64期)(平成24年11月27日)

佐藤 司(64期)(平成25年7月29日)

佐藤 誠(64期)(平成25年2月)

並木 進(64期)(平成24年10月22日)

中井 惣吉(旧姓土屋)(65期)  
(平成24年6月)

柳沼 晃(65期)(平成25年11月28日)

矢吹 博司(65期)(平成24年6月15日)

重川 信(66期)(平成25年4月18日)

遠藤 三郎(67期)(平成25年1月23日)

橋本 宏(67期)(平成24年10月28日)

山本 哲男(69期)(平成23年8月31日)

小泉 貞彦(70期)(平成25年1月27日)

穴戸 正乗(72期)(平成23年4月1日)

鈴木 重雄(73期)(平成24年2月)

村越 武雄(74期)(平成25年3月27日)

五十嵐迪雄(77期)(平成24年12月20日)

中野 富雄(83期)(平成25年8月4日)

畑岡 信夫(83期)(平成24年4月9日)



### ご挨拶 —安積の近況—

安積桑野会会長  
山口 勇 (69期)

まだまだ寒い日が続きますが、東京桑野会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。特に今年は、首都圏でも未曾有の豪雪となり大変だったと思います。郡山でも50cmを越える積雪があり、未だに雪が残っております。

3.11 東日本大震災及び原発事故から3年が経過しようとしていますが、ふるさと郡山そして福島県は、復興に向けて日夜頑張っております。

母校安積高校の後輩も久保田校長

(88期)を中心に、勉学にスポーツに日々励んでおります。勉学の方では、今年度の結果はまだすべては出ていませんが、2月20日現在福島県立医科大学医学部医学科に推薦で4名の生徒が、防衛医科大学にも合格者が出ています。127期生も、必ずや昨年度以上の素晴らしい成績を挙げてくれるものと期待しております。

部活動では全国大会に出場する部は減りましたが、ハンドボール部女子が昨年3月の全国選抜大会に出場しベスト8という素晴らしい成績を収めました。合唱部は全国大会での4年連続の金賞受賞はならなかったものの、昨年に引き続いての「ふくしま大交流フェア(12月23日東京国際フォーラム)」での演奏など引っ張りだこでした。今年2月11日には、テレビ朝日の「なんでもクラシック2014」で世界のコバケン(小林研一郎氏)指揮によるペー

トーベンの交響曲第九「歓喜の歌」を見事に歌い上げました。この模様は2回にわたりBS朝日で放送されたのでご覧になった方もいると思いますが、素晴らしいものでした。まさに、文武両道にふさわしい活躍であると思います。

安積歴史博物館の補修工事も終了し、昨年10月2日に仮オープンとなり、土日は開いております。早速講堂において、10月12日にフィールズ賞(数学のノーベル賞とも言われる)を受賞された森重文京都大学教授の講演、12月8日には本校98期卒で作家の古川日出男さん達による朗読劇「銀河鉄道の夜」が行われました。また、今年の1月20日には根本匠復興大臣(82期)が訪問され、同窓生や在校生と親交を深めました。正式オープンは9月の創立130周年に合わせた時期になるかと思っております。同窓生の皆さまに

は、多大なる寄付金をいただき心から感謝申し上げます。完成まで、事務局とともに一丸となって努力してまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

母校も今年で創立130周年を迎えま

す。記念式典が平成26年9月6日(土)9時30分より本校第一体育館で、祝賀会が同日15時30分よりホテルハマツで開催されることが決まっております。新しくなった旧本館とともに会員の皆さまと祝いたいと思います。

今後とも母校である安積高校及び後輩へのより一層の支援をお願い申し上げます。日頃からのご高配に感謝を申し上げます、東京桑野会の益々の発展をご祈念申し上げます。

(平成26年2月記)



## ご挨拶 —安積の絆と輪、 そして誇り—

安積高等学校長  
久保田範夫

昨年4月に母校安積に着任しました。5月の東京桑野会定期総会当日は、福島県高等学校長協会会長を今年度務めることとなり、全国校長会等公務と重なり出席できず申し訳ありません。まずは自己紹介を申し上げますが、8月発行の「安積桑野会だより」、9月の「桑野会報第44号」と若干重複する部分についてはご容赦願いたいと思います。

田村市大越町出身、第88期生として安積入学、1年担任は竹花栄明先生、2～3年は吉田清蔵先生(54期)でした。生徒会副会長を務め、88・90周年の2回の学校祭を経験、大学卒業後、国語教師として昭和61年から11年間、安積の教壇に立ち、恩師でもある長嶺力夫先生や吉田彌校長先生(60期)と同じ空間で緊張の日々を過ごしました。この間、創立110周年記念行事があり、生徒会や応援団、更に野球部の第3顧問を務めるなどしました。

その後、県教育庁に3回、足かけ11年間勤務し、学校経営支援課長(学校の管理部門に当たり、現在は高校教育課に改編)して仕事をしている中、東日本大震災が発生、警戒区域等の学校再開に努め、その後、教育次長を経て昨年、思いもかけず母校勤務となりました。着任以来約10か月間、卒業後も続く安積の絆、安積の大きく強い輪の存在に改めて思い知らされました。殊に「安積桑野会」の各支部の活動が活発なことは、全国でもほとんど例を見ないと思います。母校の校長就任1年目ということもあり、都合がつく限り出席するよう努め、5月から10月にかけての土曜日の夕方、仙台、宇都宮、関西(今年は京都開催)福島県庁、二本松、郡山市役所、須賀川、石川の各支部総会にお邪魔しました。この他にも、青森、盛岡、東京、福島(県庁桑野会とは別)、本宮、安積町、湖南、猪苗代、三春、矢吹、いわき、白河、香港・華南の支部が現在ありますが、できれば定年までの3年間で全ての支部総会に出席したいと考えています。

他校でも県内外に同窓会組織はありますが、あまり活動していないのが現状で、一方安積桑野会は、総会の開催だけでなく、今年度発足した「関西

桑野会学生会」のように、現役の大学生を支援したり交流・親睦を図る組織があるなど活動がとても盛んであり、しかも母校安積への熱い思いを持った先輩方が実に大勢いて、安積の絆を益々強くし、また、安積の輪を広げています。

本年度は創立130周年、桑野の現在地に移ってから数えても125年という大きな節目の年に当たります(私事ですが、90周年を生徒として、110周年を教諭として、130周年を校長として、20年刻みで大きな行事を経験することになり、このサイクルだと、私が生きていれば77歳の年に150周年を迎えることとなります)。昨年10月に仮オープンした安積歴史博物館(私はずいぶん「旧本館」と言ってしまうのですが)も完全復活の予定です。生徒達には、安積で場所・時間や言葉・記憶を共にすること、安積という学校文化を3年間共有することが安積で学ぶ最大の意義であり、安積の誇り・プライドであると繰り返し語りかけています。

東京桑野会の皆様にも、何かと御協力を頂くことがあると思いますが、今後とも本校の教育活動に御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3  
TEL 0248-72-1555

若い力で  
桑野会を変えたい

中館 透 (113期)

安積高等学校創立130周年、おめでとうございます。

このような伝統ある高校で学び、競い合って研鑽を積めたこと、また、「母校」と呼べることを本当に嬉しく思います。

今回、会報へ寄稿させていただくにあたり、理路整然とした素晴らしい文章は他の卒業生の方にお任せすると、私は少々くだけた表現ではありますが、今の東京桑野会について感じることを僭越ながら述べさせていただきます。

自己紹介が遅れました。113期の中館(なかたて)と申します。

「なかたて」と聞いて「あれ?」と思った方、いらっしゃいますか? 大先輩の中には、英語の教師であり、柔道部の顧問としても尽力した、中館学先生を思い出す方もいらっしゃるかもしれません。私はその中館学の孫にあたります。父も86期生として安積で学んだ「先輩」ですので、親子3代で安積高校の卒業生ということになります。

自己紹介はこのくらいにして、本題に入りましょう。

私が東京桑野会の定期総会に初め

て参加したのは2010年のことです。お恥ずかしい限りですが、それまでの私は、安積で過ごしたことをはるか昔のころのように考えていました。

偶然にもスケジュールの調整がつき、「学生時代を懐かしめればいいや」というくらいの軽い気持ちで参加したのですが、会場ではいくつか気になることがありました。

まずは同世代の出席者が少ないこと。出席者の大半は大先輩ばかり。100期以降、とりわけ110期代は本当に少なかった。113期は私以外にも2人出席していましたが、近しい代はゼロまたは1人という状況でした。ちょっと寂しかったですね。

あとは会費が高かったこと。当時社会人6年目でしたが、10,000円の出費は最後まで悩みました。おそらく同様の理由で欠席している方もいらっしゃるだろうと思いました。

他にもいくつか細かい点が気になったのですが、とにかく

「若い世代がもっと参加できるようにしたい!」

そう思って総会に出席していた100期以降のメンバーに声をかけ、『東京若手桑野会』という若手中心の桑野会を作りました。

今年で設立5年目になりますが、今でも定期的に懇親会を開き、若手メンバーを増やすにはどうしたらいいか、

アイデアを出し合っています。……といっても堅苦しい会ではなく、地元の話で笑って盛り上がるような会です。メンバーも100期代の方から120期代の方まで様々です。

幸い、こうした地道な活動が東京桑野会幹部の方の目にとまり、声をかけていただいて意見交換の場を設けていただきました。双方の意見を理解し、話し合いを重ねた結果、「一定期間は会費を6,000円とする」という合意を得るまでに至りました。

正直なところ、6,000円でも社会人1年目には躊躇させてしまう金額だと思いますし、この結果に満足することなく、さらなる改善に向けて今後も交渉を継続しようと考えています。若手の卒業生の方(学生含む)におかれましては、「東京若手桑野会」という組織があるということを知っていただき、「久しぶりに地元の話でもしてみよう」というくらいの軽い気持ちで懇親会に参加いただければと思います。

そうそう、「若手」とは100期以降の卒業生全員が対象です。いずれは次の世代に若手桑野会を任せ、自分たちはその活動を見守りながら大先輩と若い世代の橋渡しをできれば、それによって同世代同士の横の繋がりだけでなく、世代を超えた縦の繋がりも構築される組織になれば、微力ながら東京桑野会に、ひいては安積高校に恩返

## がんばろう 福島!!

そば うどん 酒処

## 鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷりで  
ヘルシーな そば・うどん  
夜は品揃え豊富な  
東北の地酒で一杯

霞ヶ関店 〒100-6001 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル1F ☎03-3581-7066  
 大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 ☎03-3213-2385  
 中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 ☎024-984-3774 <店主>上野富衛(78期)

しができるかなと考えています。

近々また懇親会を企画する予定です。ご興味を持たれた方はご連絡いただければ幸いです。若い力で一緒に東京桑野会の若返りを図りましょう！  
facebook：https://www.facebook.com/tooru.nakatate (株)NECソフト)

## 3.11

### 高松ゆたか (74期)

「手を離せ！・・・」

足元に迫る、瞬間に腰までつかる津波の先端から逃れようと、言い伝えの稲荷山に避難する坂道でのことだった。三人横隊のおばちゃん達に向かって、至近から声を発した初老の村人は、まん中の高齢のご夫人の瞳が、自分の目をとらえて離さなかった瞬間を、鮮明に覚えていると言う。三人のうち自分を凝視した九十代のおばちゃんだけが帰らぬ人になってしまったのだが、その瞬間のきらめく瞳は“なにか”を言おうとしていたようだ・・・この出来事を語りかけてくれる方は、その時の情景が自分の身に食い込んだまま、その映像と問答は絶えず、消化もできず吐きだしもできないままに、いつもの自分を失ってゆくようだったと言う。

間があって、迷いに迷いながら、生まれて初めて、精神科系の専門医を尋ねましたと。

「先生・・・」と、事の次第をついに吐き出し、それを聞きとどけたDrは「よく話してくれましたね・・・大変な出来事でした。しかし、手を離せ！の、咄嗟の発声があったからこそ一人は失ったけれども二人が助命されたじゃないの・・・あなたのお陰と、あの黒い瞳のおばちゃんも“あなた偉いね”って言ってくれてんじゃないかな・・・」

「自分はもう高齢だし、あの坂は逃

げ切れないよ・・・私のために、若いものが犠牲になるところを、あなたの“ひと声”が人助けをしてくれたじゃないか、それに、浜で生まれて浜で生活して海に召されるなんて・・・私はそれでいいんだよ」って。

自分も代々この浜が故郷で、語り繋がれた一つに、津波の言い伝えがあり、大小の津波の経験を経ての村人の知恵は、今回ばかりは前代未聞の異変ゆえに、焦るばかりであったと言う。

その前代未聞は、潮の引く速さと折り返す速さにあり、アッと言う間の時間だったこと。それに、潮が引いてゆく時の海底の露出は水平線の彼方まで見えるほどだったとのこと。更には、ラジオの声は“高さは3～4m”と聞こえていたが、はるかに超えて、あの砂浜の海水浴客の見張り台を優に超えて10m以上だったと言う。

この話の主は、難を逃れたこの浜の村人で、私と同年輩の住人で、現地を訪ねた私たちに、静かに語り聞かせてくれた「3.11の語り部」でした。

言い伝えの「稲荷山に逃げろ」の途中、気配で振り返った眼前、津波の先端が足元に絡みついた一瞬一秒の叫び「手を離せ！」・・・キラリと輝く高齢夫人の瞳。希望と絶望の刹那、人の命の命運に遭遇して、この現実を体現したその方は、この事実を自分の心の奥深くに閉じ込めて、門（口）外不出としたかったようだ。しかし日々の息使いが、安定しないほどに重くなり、重い記憶がかえって重く、時間の経過に「穏やかさを」期待したけれども、独り言を言いだすほど「閉口」は孤独を増すばかりだったと・・・

「大変な経験をされました。かえって、その経験をみなさんに事実として伝えて下さい」

「事実を隠すより、事実と真正面から闘ってゆきましょう」と。

・・・以来、浜を訪ねる方々に「語り部」として話しかける毎に、全身が元の自

分に返ってゆくようだったと・・・語り部は一応話し終えると、いつしか、素顔の表情を見せ、目線を水平の彼方に向けて、潮風に身をさらしておられました。

この話は、福島県いわき市の塩屋崎のすぐそばの砂浜に面した小さな村落でのことでした。改めて、村の跡通りに目をやるとコンクリート造りの小規模な学校と戸建てが2～3戸生き残り、しかし人の気配はなく、強めの浜風が横なぐりに吹いて枯れ草を揺らしながら、空虚な中に、人のざわめきのような余韻を残しているばかりでした。

### 永遠に不滅なり、 わが心の社会研究部

#### 丹治則男 (81期)

大先輩の方々から「あなたたち若い人……」と言っていたのがうれしくて、桑野会の会合に顔を出すようになったのは、30年余前からであった。そんな私が、机の抽斗を整理しようと思立ったのは、「残りの時間」を思うようになったこともあろうが、東京桑野会広報部から、原稿依頼をいただいたからだった。

そこには、懐かしい安積があった。未だ真新しい「生徒手帳」が出てきた。ページを繰ると、正門からの本館の写真に続いて、「吾人は須く現代を超越せざるべからず」の言葉とともに高山樗牛の在学中の写真が載っている。かつて予備校の先生が「須く」の誤用例として繰り返し指摘していたことを、昨日のことにように思い出した。「先生よお、あんたより樗牛先輩の方がずっと偉いんだぞい」と呟いていた浪人時代の自分がそこにいる。

縦12センチ、横9センチほどのメモ帳もあった。今はどうに休部になっていると聞く「安積高校社会研究部」

の時のものである。もっぱら安高社研と略称されていたが、入学した時、3年生は事実上1人、2年生は2人だけであった。自分たち1年生は、コアな部分だけでも7人いたとはいえ、言われるまでもなく、クラブ存亡の危機にあった。

2年生になった時には、だから新1年生を必死になって集めようとした。お昼休みには、9つの教室を手分けして回り、教壇から入部を勧誘した。自分たちの昼飯は「早弁」で済ませているから、心ならぬ腹おきなく「志ある安積の健児よ、社研部に来たれ」とやった。

おかげでか、本館の2階、バルコニーの向かって右にあった部室には30人近い新入生が「あの～、入部したいんだけど」とやってきた。その時限りで顔を見せなくなった生徒もいたのは、我々の中に怖いお兄さんがいたのかもしれない。そこで「一度来た1年生の囲い込みをやんねどなんね」と考えて作った新入部員名簿が、そのメモ帳であった。

表紙には「新入部員 閻魔帳」とある。1年×組(〇〇中学出身)に続いて氏名、入部動機、社研部でやりたいこと、住所などを書き込んだ。“目玉”は各人の似顔絵である。今見ても、下手なりに特徴はつかんでいると、改めてひとり悦に入っている。

その数25人。今でも時に会って飲むことがある友人もいる。桑野会の幹部もいる。なんてたって国務大臣の顔もある。

生徒会では、「弁論大会の練習やってんじゃねえぞー」と野次られながらも、「安積はこれでいいのか」「社会に、世界に、目を向けよう」と呼びかけ、「我々を安積の枠に縛り付けようとする先生方の生活指導は間違っている」などと偉そうに訴えたことも思い出す。ええかっこを、新入部員に見せたかったのかもしれない。

桑野寮での合宿も楽しかったと、すっかり懐古趣味になっている。もっとも、生徒手帳にある生徒会会則によると、社会研究部ではなく社会部が正式名称らしい。でも、ほんとに楽しかった。暇になったのだから、母校に顔を出して社会部再結成を呼びかけてみようかな。でも「変なオヤジ」と嫌われるだろうなあ。新聞社の社会部記者になったのは社研部にいた縁だったと思い出しながら、酒を飲むと妄想が膨らむ。これまた楽しからずや。

## 40年前のこと

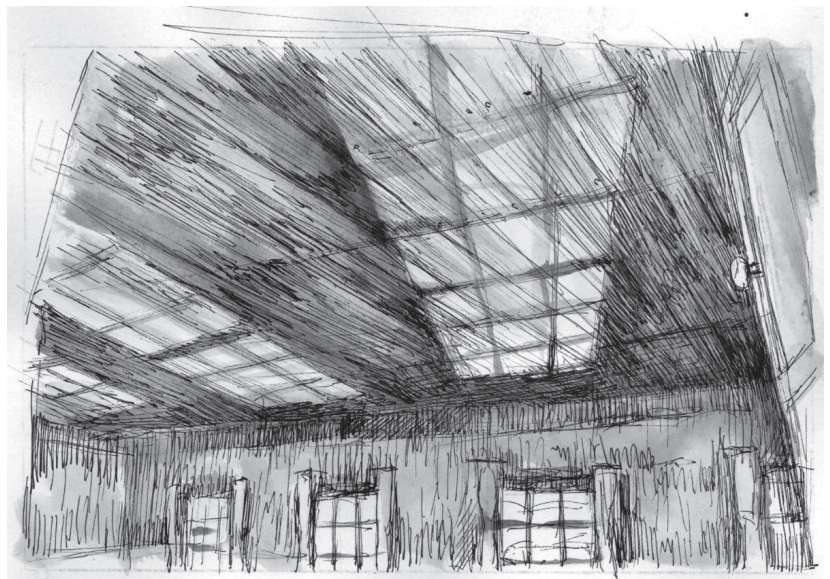
### 矢吹 久 (90期)

母校の創立130周年と聞いて、ちょうど40年前の自分が入学した年のことを思い出した。私が入学した1974(昭和49)年も、創立90周年という記念の年であったからである。高校生として最初の夏休みが終わり、2学期が始まってまもなく記念式典が行われたわけであるが、その年は3年に1度(当時)の文化祭(まだ紫旗祭という呼称はなかった)の開催年でもあった。仮装行列やお化け屋敷の準備が

あった。かくして、夏以降、われわれの気持ちはいやが上にも高まり、私は、その頃のわくわくする気分を、今でもはっきりと蘇らせることが出来るほどである。

記念式典そのものは、一般の生徒が特に何かをするわけではなく、ただ式典に列席できるだけのことである。実際、数日前に予行演習が1回あったかどうかというくらいのものであるが、それでも国会議員等のお偉方がおいでになることもあってか、私にも、生徒の一人として胸躍るものがないではなかった。歴史の1ページを目撃できるという緊張感があった。

ところが、私は、この記念すべき式典に参列できなかつた。当日欠席したというわけではない。その日の朝、登校した私は、当時1年8組の担任であった日下部健一先生から、来賓の接待係を頼まれたのである。管理棟2階の職員室の出入口近くに教室があったためか、わが1年8組が来賓の控え室となり、そこでお客様にお茶をお出しする係を私が仰せつかったのである。同級だった緑川信一君と二人である。この人選に、先生の特別のお考えがあったとは思えない。どちらかと言



《旧本館・講堂の陰影》画：樫村俊智(98期)

えば、二人とも愛想の良い方ではなかった。誰かにお茶出しをさせようと思ひながら教室に来られた先生が、たまたま近くで話をしていた二人を見つけたにすぎないのである。

初めは、来賓の方々が式典に向かわれれば、われわれも合流するものと考えていた。ところが実際は、手荷物の留守番が必要となったためであったか、そのまま教室に残り、そこで式典の様子に耳を傾けることになった（音声だけは校内放送用のスピーカーで聞くことができた）。結局、二人は、放送を聞きながら、数時間ずとほぼと雑談をしていたのであった。

相棒の緑川君は、行事等をひどく面倒くさがる性格の人物であり、係に任ぜられたことをむしろ喜んでいて、教室にいる方が楽だというのである。そんな級友の考え方にあきれながら、私はと言えば、参列できない事を残念に思いつつも、こんな変わった形で歴史に関わるのもかえって印象に残るかもしれないと考えたりしていた（この文章を書くにあたって、その思いは正しかったことが確認できた）。

式も終盤にさしかかり、皆が立ち上がって校歌や応援歌を歌う段になっ

たとき、日下部先生が戻って来られ、お許しが出了。われわれは、急いで体育館に行き、最後尾の列に強引に加わり、見知らぬ人と肩を組んで声を張り上げたが、それが私にとっての90周年記念式典のすべてなのであった。

（文部科学省）

## 継続する力 —130周年によせて—

田原美郷（91期）

明治17年（1884年）開校から130年。母校の壮大な年月の積み重ねに、あらためて誇りと先人への敬意を覚える。時代の変遷を超えて連綿と続くことには、単に歴史や伝統と言うだけではなく、続くことそのものに大きな力や意味が感じられないだろうか。

例えば、東京桑野会総会には、分野を超えたあらゆる世代が一堂に会する。同期や直接の先輩後輩と久闊を叙する楽しみは無論だが、何十年もの世代を超えて触れ合う機会は、そうそう得られるものではないだろう。

なおかつ、そうした違う世代であっても、会話の端々に安積の精神を感

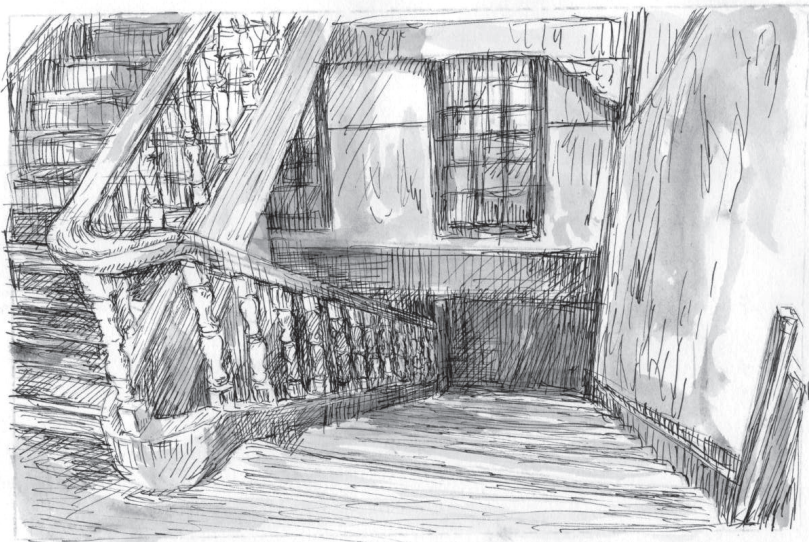
じ、確かな信頼感の上での交流を持っているのである。例えば、就職を控えた大学生にとっては、志望分野の大先輩の貴重な話を聞ける。先輩にとっては、今時の学生の不安、本音を。あるいは、部長、役員クラスが、入社2、3年生の赤裸々な悩みを。ともすれば、自分の子供より若い世代の、リアルな声を耳にできるのである。何より、後輩達の力になれると言う喜びがある。

また、共学化以後は、女子学生ともそうした機会があった。共学化は時代の流れであり、決して反対ではなかったが、安積が様変わりしてしまうのではないかという不安もあった。しかし、彼女達にもしっかりと安積の魂の息吹を感じ、喜びとともに安積の持つ継続する力を、あらためて感じたのである（男女に関わらず、安高卒業生には一本芯が通っていると感じるのは、母校への最注目だろうか？）。

さて、ネットで調べてみると、130年以上の歴史を持つ高校は、全国でもわずか60校前後のようだ。継続という意味で、企業についても調べてみた。あくまで、調査結果のひとつではあるが、10年後で5%。20年後0.4%、30年後0.025%と、10,000社中2.5社しか残らないそうである。

手前ごとで恐縮だが、自分の勤める会社は今期48期。約2年後に50周年となる。安高の半分にも満たないが、企業としては長命の部類に入るだろう。50年にせよ、130年にせよ、世代、時代を超えて継続する精神には、相通ずるものがあると思う。時代の流れの中で立ち止まることは後退と同義で、かといって流れを追うだけでは、存在意義自体を見失い飲み込まれる。「進取の気象」と「質実剛健」、「変化に対応する柔軟さ」と「一本芯の通った譲れない部分」を持つことが、継続の鍵ではないだろうか。

倒れて再び立つことも、もちろん素晴らしいが、困難にあって倒れない強



《旧本館・中央階段》画：榎村俊智（98期）



さも、限りなく素晴らしい。そして、継続することで生まれてくる力が確かにある。今後も、何千、何万という後輩が巣立つであろう安積の伝統と精神を、130年の節目にあらためて守り伝えたいと願う。

(株式会社 東京技術計算コンサルタント)

## 朝河貫一の「反省力」

後藤 大 (107期)

東日本大震災に端を発した東京電力福島原子力発電所事故。その国会による事故調査委員会(国会事故調)報告書([http://naicc.tempdomainname.com/pdf/naicc\\_honpen.pdf](http://naicc.tempdomainname.com/pdf/naicc_honpen.pdf))の「はじめに」の中に、朝河貫一の名前が出てきます。

そこでは、朝河の著書「日本の禍幾」が、日露戦争に勝利した日本のありよ

うに警鐘を鳴らす書であり、その後日本が「変われなかった」ために、進んでいく道を正確に予測していた、と評されています。

その後、同報告書は、「『変われなかった』ことで、起きてしまった今回の大事故に、日本は今後どう対応し、どう変わっていくのか。これを、世界は厳しく注視している。この経験を私たちは無駄にしてはならない。国民の生活を守れなかった政府をはじめ、原子力関係諸機関、社会構造や日本人の思い込み(マインドセット)を抜本的に改革し、この国の信頼を立て直す機会は今しかない。」と続いています。この報告書の前文を読んで、恥ずかしながら、初めて「日本の禍幾」(講談社学術文庫)を手にとって読んでみました。

「今日のごとく日本人民の反省力を国民的に長ずることを怠り、わずかに少数者の知察と道念とをもって、一国

の行路を導くに任する時は、日本の前途は極めて不安心のものといわざるべからず。」、朝河は、結論部分でこう述べています。

反省力は、同書の全篇を通じて繰り返されるキーワードなのですが、ここでいう反省力は、一般的な意味の反省とは異なるようです。朝河が同書の冒頭で「今日、日本の要するところは実に反省力ある愛国心なり。まず明快に国家前途の問題を意識して、次にこれに処するに非常なる猛省をもってするにあらざれば、国情日に月に危うかるべし。」「解決に要するところは超然たる高明の先見と、未曾有の堅硬なる自制力とにありて」と述べられていることからすると、日本の問題を私たち1人1人が個人として考えて、実際に対応を実行することを意味しているように思います。

そうすると、最初に引用した部分は、「問題を発見する力と、それへの

不法電波は  
やめましょう!

ATIS(自動識別装置)を  
必ず取り付けましょう!

技術と奉仕の無線機器部門  
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門  
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門  
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店  
富士通テン株式会社特約店

# 株式会社 山口電機

[www.yamaguhi-denki.co.jp](http://www.yamaguhi-denki.co.jp)

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18  
水戸支店 水戸市中河内町67番地1  
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地  
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号  
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22  
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1  
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号  
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817  
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237  
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274  
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699  
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503  
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004  
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701  
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

対応を実行する力を1人1人伸ばすことを怠り、ごく少数の人間の知恵とビジョンに、国の行く末を任せるときは、日本の前途は極めて不安」と受け取るべきではないでしょうか。そして、この言葉は、「国」や「日本」という言葉を、「社会」や他の言葉に入れ替えても、意味は通じると思います。

これを読んで、朝河が指摘した「反省力」の不足は、現代でも変わって

いないのではないかと強く思いました。この本のオリジナルは、明治41年（1908年）に出版されたものです。そうすると、朝河が今から100年以上前に指摘した問題は、いまだに解決されていないということになります。

安積出身の人間としては、朝河のいう反省力を身につけて、これからの日本が、地域社会が、自分にどんな問題があって、何をすべきかを考えていか

なければいけないという感想を持ちました。

今年の東京桑野会総会は、母校創立130周年の記念講演がありますが、東京桑野会会長であり、朝河貫一顕彰会の会長も務められたことのある古川清先輩が朝河貫一について講演されるそうですので、朝河貫一に興味を持っていただいた方はぜひご参加いただければと思います。（弁護士）

## 旧交を温める

### 田母神俊雄（80期）

いつも硬いブログばかり書いているが、今回は、私の人間的な側面も知ってもらうために少し脱線してみようかと思う。

福島県郡山市に県立安積（あさか）高校がある。福島県では一番古い高校で、130年前に設立された学校である。卒業生には、古いところで明治の文芸評論家高山樗牛、日本人初のエール大学教授で日米開戦回避のため奔走した朝河貫一、小説家の中山義秀などがいる。最近では2001年の芥川賞作家玄侑宗久（げんゆう そうきゅう）がいる。

9月の14日と15日、私は安積（あさか）高校時代の3年7組仲良しグループ5人で、地元福島県郡山市の磐梯熱海温泉「昭月」というホテルに宿泊した。半年前から日程を調整して今回の実現となった。私たちは福島県立安積（あさか）高校の第80期生であるが、前回東京オリンピックがあった昭和39年（1964年）に入学し、昭和42年に卒業した。卒業後それぞれ別の大学に進学し違った道を歩んできたが、時々会って連絡を取り合ってきた。実は私たちの仲間にはもう一人、渡辺喜信君という仲間がいたが、12年前に病気で他界している。天真爛漫

というか豪快な男であり、高校時代は応援団のリーダーを務めていた。地元で父親が始めたタクシー会社を受け継いでいたが、52歳の若さで逝ってしまった。喜信君の父君は、陸士58期の出身であり、防衛大学に入った私が家を訪ねると、暫し旧軍時代の話懐かしそうにされていた。可愛がって頂いたが、父君も2年前に旅立たれた。

他の5人は、伊藤博文、菅家道郎、芳賀幸雄、渡辺茂夫、田母神俊雄の5人である。伊藤博文君は、名前が我が国の初代総理大臣と同じで、入学後初めて知ったときは大変驚いた記憶がある。地元郡山市役所で部長までやって退職し、現在は同じく地元の（株）内藤工業所の技術顧問として頑張っている。一級建築士の資格を持つ、名前の通り厳しい男である。菅家道郎君は、お医者さんの家に生まれたが、医者にはならず、鹿島建設東北支店で、宮城県、山形県を中心に建設の現場で活躍をした。現在も松島瑞（ずい）巖（がん）寺の改修作業の現場監督をしている。大変な酒好きで、2年前に病気で手術をしたが、既に酒がどんどん飲めるほどに回復した。私も菅家君から宮城県、山形県の大吟醸を何度か送ってもらって賞味させてもらった。物事にこだわらない底抜けに明るい楽しい男である。芳賀幸雄君は、高校時代、前から2番目の私の後ろの席にいて、2

人でよく無駄話をしていた。ロッテで経理担当部署にいたが、30台半ばで自立し税理士事務所を開き、現在は関東信越税理士会 川越支部の副支部長をしている。職業柄からか、元々の性格なのか、堅実で、頼めば何でもやってくれそうな頼りになる男である。しかしユーモアもあり、コロンブスが最初に到着した島の名前を書けという試験問題で、ひょっこりひょうたん島と書いて先生を笑わせたこともある。渡辺茂夫君は、積水ハウスの営業で、東北地方を中心に活躍した。一旦定年を迎えたが、現在でも細々と積水ハウスの仕事を手伝っている。高校時代から人当たりがよく、みんなに愛されながらチャレンジ精神も旺盛だったので、営業の面ではうってつけの人物だったと思う。

今回の会合では、郡山駅に9月14日の昼に集合して昼食のあと、亡くなった渡辺喜信君のお墓に墓参りをした。忙しい中、喜信君の妹さんが立ち会ってくれた。その後2年前に亡くなられた3年7組の恩師「吉田弥（ひさし）」先生のご自宅を訪問して、奥様にお会いし、1時間半ぐらい談笑させて頂いた。奥様も、私たちが何度も先生宅を訪問しているので既に顔見知りである。吉田先生は国語の先生であったが、2学年、3学年と私たちの担任の先生で、可愛がって頂いた。厳しき

の中にも優しさがあり、よく生徒に愛され尊敬された先生であった。3年前の3年7組全体のクラス会の時には吉田先生にも御出席頂いたが、あれが吉田先生にお会いした最後になってしまった。

その後、磐梯熱海温泉「昭月」に行き、温泉につかり宴席になった。昔話に花が咲いた。それぞれが仕事で苦労した話も聞いた。現在のそれぞれの家庭のこと、これからどうするのか、日本の国をどうすればよいのかという話しなどで、大いに盛り上がった。伊藤博文君が、平成9年に渡辺喜信君を含む5人が沖縄を訪問した時のアルバムを持ってきていた。当時田母神が沖縄に勤務しており、5人が私を激励するために沖縄を訪問してくれたのである。アルバムを見ながら16年前の私たちの姿かたちが現在と大分違っていることでも大いに盛り上がった。

「昭月」はこじんまりした和式のホテルであるが、いろんな場所に花を飾り、書棚を置くなど気配りの感じられる落ち着いたホテルである。従業員の皆さんの対応も心休まるものであった。そしてなんと支配人が、私たち安積高校の1期先輩で79期の人だった。それを知ると突然に、初めて会った支配人にも親しみを感じずるようになった。

翌15日の朝も早朝から温泉につかった。みんな年をとって来たせいか早起きである。私が5時に目を覚ます

と既に伊藤博文君は起きて本を読んでいた。伊藤君は毎朝6時20分に出勤しているようだ。5時半には全員が起きた。その後入浴して8時から朝食をとった。車の運転をしない菅家君と芳賀君は朝からビール、日本酒である。本当に楽しく、癒された二日間であった。さて今年から私たちも前期高齢者になった。そこでこれからは毎年このような機会を設けようではないかということになった。

磐梯熱海温泉から、少し酒を飲みすぎた菅家君をホテルにおいて、170年前に建てられた田母神の実家を訪問しお茶を飲んだ。芳賀君だけは少しビールである。今は誰も住んでいないので私が月に2回ぐらい帰って来て家を開けている。元々農家作りの大きな家であるが改修して一応快適に住めるようにはしている。私はこの家の6代目である。来年はここでやってもいいではないかと皆さんが言っていた。それから郡山駅に移動して、菅家君とも合流し、また来年もやろうということので15日の昼過ぎに解散した。(※許可を得て、公式ブログ2013-9-17より転載いたしました)

## 初代帆船日本丸

大内博文 (71期)

母校福島県立安積高校は本年創立130周年を迎える。71期は昭和30年4

月入学、33年3月卒業となる。当時安積高校より東京商船大学に進んだ生徒は毎年何人か居た。それも機関科に進んだ方が多かったことは、数年前「東京桑野会誌」に投稿した事がある。理由として現在「安積歴史博物館」となっている旧校舎の薄暗い教室を挙げたことを思い出す。今回は船員教育の一環として位置づけられてきた帆船日本丸について書いてみたい。

初代帆船日本丸は、現在横浜市中区桜木町、ランドマークタワー横のドックに係留され、市民はじめ多くの方々に海の教材として親しまれている。運営・管理は横浜市が担当しているが、総帆展帆、メンテナンス、お客様へのガイドなど、200人に及ぶ市民ボランティアの方々が協力している。総帆展帆は今年も3月より月1回日曜・祝日にあるので是非見学に来て頂きたい。小生も縁あって「ガイドボランティア」の1員として参加し、帆船練習船の意義や実習生の生活などを説明している。

母校は明治17年に創立されたが、日本の船員教育は若干早く隅田川河畔、靈巖島で私立商船学校が産声を上げた。越中島に移転、官立高等商船学校になり、明治中頃より官立地方商船学校が函館、鹿児島など11校が立ち上がり、当然部員養成学校も立ち上がってきた。大正5年神戸を中心とする関西地区の有力企業により、官立高等商船学校が神戸市深江に設立、戦前

### 安高は自分の心の拠りどころ

医療法人社団 松弘会 トワーム小江戸病院  
認知症専門病院

院長 医学博士 渡辺 哲弥 (70期)

(練馬区東大泉7-14-15)

### 株式会社櫻井淳計画工房

代表取締役 一級建築士

櫻井 淳 (78期)

〒231-0007  
横浜市中区弁天通6-85宇徳ビル403  
TEL: 045-663-9271  
FAX: 045-663-9273  
E-mail: spajun@bk.iij4u.or.jp  
Web Site: <http://www.j-sakurai.jp/>

ごうや  
山田・谷合・鈴木法律事務所

弁護士 鈴木 修一 (89期)

〒100-0012  
東京都千代田区日比谷公園1番3号  
市政会館1階115号室  
TEL 03-3501-0451  
FAX 03-3501-0452  
E-mail: [shuitisuzuki@nifty.com](mailto:shuitisuzuki@nifty.com)  
<http://www.yamada-law.gr.jp>

までの商船船員教育ができ出来上がった。

当時練習船は、学校が独自に保有し運航していた。高等商船学校には、「大成丸」・「進徳丸」が実習訓練をしていたが、地方商船学校には十分な能力のある練習船はなく、一部の学校は民間の社船に委託していた。時々事故があり大切な人命を失うことが多かった。このような折、昭和2年鹿児島商船の練習船「霧島丸」が銚子沖で海難事故を起こし、職員・実習生全員が犠牲となる大事故が発生した。これを機に地方商船11校合同の練習船建造が実現し、昭和5年4月練習帆船「日本丸」・「海王丸」の姉妹船が誕生、文部省航



海訓練所に移管され実習訓練が開始された。高等商船の「大成丸」・「進徳丸」、地方商船11校の「日本丸」・「海王丸」は「海の貴婦人」、「太平洋の白鳥」と呼ばれ太平洋戦争迄その名を世界に残した。しかし、昭和17年太平洋戦争が激しくなり、帆船4隻の艦装は全て撤去、汽船として瀬戸内海を中心に物資輸送を任務することになった。この戦争中「大成丸」・「進徳丸」は触雷沈没したが、幸運にも「日本丸」・「海王丸」は沈没を免れ、戦後復員輸送や民間人の引き上げ輸送及び内地物資の輸送に従事した。

この戦争で日本商船隊は壊滅的な打撃を受けるとともに、船員も40%を超す人命が犠牲となった。戦後、船員教育も大きく変革、商船大学1校（後に2校となる）、商船高校5校体制でスタートとなった。

昭和27年日米講和条約を機に帆船2隻の帆走用艦装の復活が決定、戦前の姿に戻るようになった。愈々実習生を載せての帆走実習が再開された。後日、日本丸が北米からの帰途、ピキニ環礁での水爆実験を目撃した話を聞いた。「第5福竜丸」は距離が近く被爆したが、日本丸はその影響はなかった。

昭和58年姉妹帆船は53歳となり、流石に年齢には逆らえない衰えが目立ってきた。新造帆船の建造が決まり、昭和59年2代目「日本丸」・「海王丸」が完成、新しい時代に入った。初代姉

妹帆船は全国10港を超す候補地が名乗りを上げたが、「横浜」・「富山」に決定し現在に至っている。

横浜港の現在地は旧三菱重工横浜造船所1号ドックで、日本丸は船舶として登録され、検査が義務つけられている。そのためバリアフリーになってなく船内はかなり危険な通路や見学場所がある。一方、船であるためマストに登り、帆（セール）の展帆が可能となっている。昭和60年4月、市民展帆ボランティア要員訓練や整備メンテナンス要員も揃い、第1回目の総帆展帆が盛大に実施され多くの市民が見守る中無事終了した。勿論、初期は実習生OB、航海訓練所OBが多かったが、市民ボランティアの訓練が進み、現在100名を超す市民が登録、事故なく立派に作業をこなしている。年間約10回展帆作業が実施されているが、平成24年11月3日「300回記念総帆展帆」があった。船内見学時所要にスピーカーによるガイド説明（日本語・英語）はあるが、初めての見学者も多く、有志による自発的なガイドが始まった。平成21年このガイド要員を組織化し、「帆船日本丸ボランティアガイド」として50名で活動している。2～3名のガイドが当番で船上にいるので、是非声を掛けて欲しい（無料）。日本丸詳細については船上でご説明するが、昭和5年～昭和59年の54年間に士官候補生11,500人余を育て、総航海距離183万キロ（地球45.4周）となります。

大内 博文 (71期)

木貫床と壁 孝和建商株式会社  
千葉市中央区汐見丘町16番12号

取締役総務部長 小林伸久(84期)  
E-mail: nobuhisakoba@docomo.ne.jp

★Rie's Gospel Choir &  
Rummy's Gospel Singers  
Gospel Concert  
H26.7.13(日)16時  
南総谷・サンシティホール

★中里たかし  
パーカッションスクール  
ライブ VOL.7  
H26.11月(予定)  
西栗磯・スタジオフォー(予定)

東京桑野会

鎌田 光明 (94期)

〒153-0061

東京都目黒区中目黒  
2-3-13-209

E-mail: mit.kmt@gmail.com

今後日本丸は100歳まで船体整備を実施し、保存すると聞いている。日本国籍戦船・日本人船員は本当に少ない。大学・高専はあるのだが入学し、その道に進んでくれる若者は残念ながら多くない。

## 朝河貫一顕彰協会便り

矢吹 晋 (70期)

顕彰協会の活動に関わる2通の私信を紹介する形で、会の活動を回顧しておきたい。一つは力作『朝河貫一と四人の恩師』（武田徹、佐藤博幸、梅田秀男、安西金造共著、顕彰協会刊、1050円）の刊行に際して、著者たちに宛てた感謝・激励状である。

\*新著『朝河貫一と四人の恩師』を拝受して、たいへん驚き、感慨深く拝読しました。名前だけをかすかに聞いた程度にすぎない明治の教育者群像が一次資料に基づいて、きわめて実証的に描かれており、青年朝河貫一の思想形成、人格形成の場が手にとるように分かりました。\*このような新資料発掘に基づく著書は、やはり地元で丹念に調べないと書けないものです。四人の共著者の問題意識と朝河への思いが一致するという条件があって初めて成立した本ですね。顕彰協会発足5年の知的活動がここに結実したわけで、その成果を祝賀したいと思います。\*刊行を記念して、「四人の恩師から朝河貫

一が何を学んだか」というテーマでシンポジウム（あるいは対話劇）をやるとよいですね。四人の著者がそれぞれ、「朝河の恩師」役として舞台に登場し、青年朝河貫一（この役は現役の高校生にやってもらう）と対話を行う。そのような対話劇をやったら面白いと思うのですが、いかがでしょうか。\*英語の学び方、外国認識、日本社会の近代化の課題、社会改革における知識人の課題といったテーマを設定し、この本から科白を抜き出して、侃々諤々やれば、とても面白いドラマになりそうです。来年の総会あたりでぜひ上演を実現したいですね（2009年11月10日、矢吹晋）。

もう1通は、朝河貫一の『入来文書』の当主夫人、貞子さんに宛てたものである。\*入来院貞子様 朝河貫一顕彰協会「入来の旅」から帰り、お世話になったお礼も申しあげないうちに、メールを頂戴して恐縮の至りです。ワシモのホームページで「入来薪能・巴」の写真・解説を見て、物語の流れを改めて深く理解したところです。\*木曾義仲と巴御前の話は、義経と静御前の悲劇と似たところがあり、ここで頼朝は、カゲの悪役ですが、両者共に政治権力が京都から鎌倉に移る移行過程を時代的背景としており、「渋谷氏下向」の時代を知るには、恰好の素材ですね。この時代の空気がわからないと、入来院ファミリー・ヒストリーの起りが理解できない。\*ところでわが

「入来薪能」記念訪問団は、8月28日午前、出水武家屋敷の篤姫撮影に場所を提供された竹添氏宅で、「藩政時代の薩摩」のボランティア解説を聞いたのですが、仲間の一人（高田宗彦）が「朝河貫一・入来文書」のことを質したところ、解説員が何も知らないことになってしまいました。\*そこでは「薩摩示現流」の説明もありましたが、最も正統的な薩摩示現流が入来院一族の東郷家に始まることも知らない様子でした。というわけで、私としては一日も早く、『貞子の語る入来院物語』が完成することを祈念するばかりです。\*もう一つ。8月29日午前は鹿児島市内の尚古集成館を参観したのですが、そこに島津家系図が掲げてあり、忠久が「頼朝の子」であるかのごとく、「実線」で結んでありました。\*この説明図では、朝河貫一が苦勞して書き上げ、検閲を受けて伏せ字だらけの論文として発表された「島津忠久の生い立ち」はまるで無視されています。私は図書館から『史苑』（1939年7月号）を借り出し、『朝河貫一比較封建制論集』に収めました。\*その後イェール大学図書館で朝河貫一文書から朝河自身が伏せ字を起こしたテキストを発見して、『朝河貫一とその時代』第5章「島津忠久の生い立ち――伏字復元のこと」を書いて、伏字復元の経過を説明した次第です。\*帰京2週間後に、柳沼八郎弁護士の訃報に接し、通夜にかけつけました。阿部善雄と柳沼八郎は旧制安

## 増子 邦雄 (71期)

東京桑野会副会長

医療・日本崩壊阻止の処方箋！

## 本田 宏 (86期)

埼玉県済生会栗橋病院 院長補佐  
NPO法人医療制度研究会 副理事長

- 経済最優先の医療費亡国論で、先進国最低に抑制された医療費と医師数！
- 未曾有の超高齢化社会目前、福祉体制充実目指すなら、北欧並の投票率70%以上が必要最低条件！
- 世界最大の悲劇、善意の人の沈黙と無関心：キング牧師の言葉

## 弁護士 後藤 大 (107期)

〒104-0061  
東京都中央区銀座4-10-16  
シグマ銀座ファーストビル2階  
堂野法律事務所  
TEL 03-3542-9031 FAX 03-3542-9030  
E-mail: d-gotoh@dohno-law.com  
URL: <http://www.dohno-law.com>

積中学50期で同級でした。その縁で、朝河貫一資料保存のために両氏は奮闘されたのですが、1983年9月に阿部著『最後の日本人』が出たところから、旧顕彰協会の立ち上げをめぐる両氏は不仲になり、86年5月、阿部氏は急逝。柳沼氏はその後、朝河貫一研究会（早大）と、朝河貫一顕彰協会（福島県）両者の顧問弁護士として、大活躍されたことはご承知の通りです（『朝河研究会ニュース』合本の143～154ページに、阿部善雄「ある覚書」所収）。  
\*阿部・柳沼両氏が顕彰協会や研究会の活動ぶりを話題として、彼岸で語り合う日も間近と思います。備忘のために一言記しました（2010年9月12日、矢吹晋）（横浜市立大学名誉教授）

## 安積歴史博物館たより

### 村田英男（75期）

#### 1. 旧福島県尋常中学校本館の存在意義に関して

この建造物は郡山市では唯一の国指定重要文化財です。多くの古い建物が移築され保存されている中、当初の位置に現存する事に意義があります。文化庁国指定重要文化財データベースの中から「近代、学校」で抽出しますと35管理者67棟が出てきます。それらの管理者は学校法人、国立大学法人、県、市町村などです。唯一の例外はこの公益財団法人安積歴史博物館です。

本来は福島県が保存に乗り出さねばならなかった筈ですが、当時、福島県にはその気がなく安積OBが財団法人を設立して保存に当たったとの事です。

#### 2. 建物の修復工事

震災に伴う建物の修復。（94%の補助金）並びに以前からお願いしていた塗装工事にも補助金が付き平成25年9月に完成、文化庁からの建物の引き渡しを受けました。但し、博物館内部の整備が完成引き渡し後でないと手を付けられない状況でしたので過去の展示品は各教室に残置のままでした。

#### 3. 建物以外の工事

森の様に左右が隠れ正面から見るとバルコニーしか見えなかった旧本館でしたが、木の下部を削ぎ落したり、伐採により全館が見えるようになりました。そこで今までは安積高校に頼って

いた駐車場を旧本館前の左手に増設いたします。更にトイレも男女別にして増設いたします。

4. 博物館内部の各室割付け予定と利用外部者（安積OB以外）を含む再構想委員会にて検討の結果。出来るだけ多くのスペースを貸出ししようと考えています。既に朗読劇『銀河鉄道の夜』の公演、郡山JCの久米賞百合子賞授賞式に利用されたように講堂の貸し出しをしました。ギャラリーは今回2教室を充てますが絵画展などに貸し出しを考えています。桑野文庫では安積卒業生を含む郡山地方の著述者による書籍を充実させる予定です。更に朝河貫一博士顕彰協会様には朝河貫一博士関係の資料の充実をお願いいたしております。展示物を固定せずに入れ替えながら運営していくためには多くの



《修復なった安積歴史博物館（旧本館）の外観》

奮い立て我健男児

大矢 真弘（88期）

21世紀をリードする  
安積SPIRIT!

浅川 章（76期）

東京桑野会副会長  
〒338-0821さいたま市桜区山久保2-18-3  
電子メール：chobi@hyper.ocn.ne.jp

石井総合事務所

司法書士・行政書士

石井 俊一（82期）

〒104-0061東京都中央区銀座8-8-15  
青柳ビル7階

TEL：03-3289-1411  
FAX：03-3289-1422  
E-mail：s-ishii@e-1411.com  
http://www.e-1411.com

資料収蔵庫が必要となり、その分展示スペースが大幅に減ります。予算との兼ね合いもあり頭を痛めています。

## 5. 公益法人化

平成25年11月20日に公益財団法人安積歴史博物館が認可に成りました。当の事務局が知らなかったとは何ともお粗末ですが、24年4月からの連続的な任期で理事は26年3月末まで、評議員は28年3月末までです。評議員7人、理事7人、監事2人態勢となり公益の性格上安積高OBだけでない構成となっています。(日本相撲協会に外部者が入っているのと同じ)

今後は皆さまからの篤志は大口納税者には免税となりますのでよろしくお願いたします。

## 6. 防火訓練

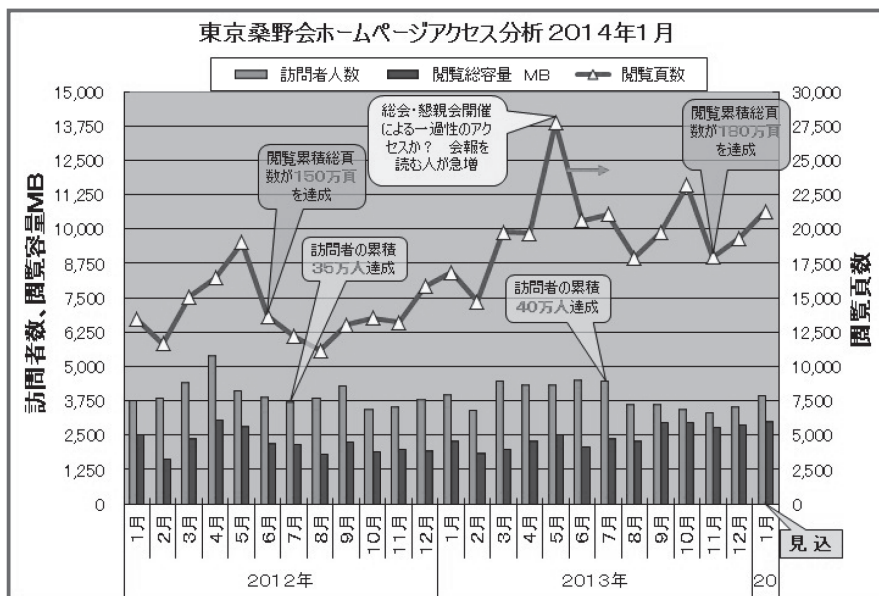
平成26年1月26日は第60回「文化財防火デー」に当たり、郡山市文化課、郡山地方広域消防組合、郡山市消防団中央地区隊、開成台新町内会、安積桑野会の協力のもと大々的に消火訓練を行いました。

## 7. 完成祝賀会

平成26年9月は創立130周年に当たります。そこに日程を合わせ、絵画展示、完成祝賀会を開催、挙行予定です。

最期に。予算が脆弱な中での法人の維持です。今後ともOBの皆様の温かい応援をお願い申し上げます。

(公益財団法人安積歴史博物館・業務執行理事)



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

## ホームページの運用状況報告

—創設11年目の活動とアクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀雅美 (86期)

(東京桑野会ホームページ委員長)

昨年の会報でご紹介しましたが、当会ホームページは2003年3月にランドオープンしてから10年を超えました。かなりPRした効果があったのでしょうか、おかげさまでこの1年は閲覧頁数(ページビュー)が大幅に増加しました。会員の皆様にご支援いた

いただきましたこと、深く感謝致します。

さて、会報でのホームページ便りも回を重ねてまいりましたが今回で11回目となりました。当会ホームページ運営活動では、引き続きハード面では大きな障害やトラブルの発生はなく、安定的にホームページを提供できたことを喜ばしく思います。また、掲示板へのロボットによる自動スパム投稿も完全に排除することができ、平穩無事に運用してきました。2007年の11月に実施した、悪戦苦闘の末の掲示板プログラム大改修が大きく功を奏して効果が絶大だったことを改めて実感し、万感の思いがします。ご利用いただいた会員の皆様には、改めて深く感謝を

元航空幕僚長 軍事評論家

田母神事務所代表

田母神 俊雄 (80期)

〒156-0051

東京都世田谷区宮坂3-2-13-102

TEL 03-6413-0870

FAX 03-6413-6877

e-mail: tamogami@toshio-tamogami.jp

HP: <http://www.toshio-tamogami.jp>

がんばれ安積 がんばれ福島 がんばれ日本

渡邊 龍一郎 (81期)

Watanabe Ryuichiro

〒107-0062 東京都港区南青山5-12-28-802

Phone: 090-1429-6127

E-mail: watanabe2021@ryu.bz

展示会

平成26年12月10日～23日 土日会展: 国立新美術館

作品 チャグ馬シリーズ 194×388cm

展示会予定

平成28年4月～5月 岩手県滝沢市新文化ホール(仮称): 個展

作品 チャグ馬シリーズ 194×388cm = 10組 他

高松 ゆたか (74期)

ギャラリー・  
絵画教室 たかまつ

(<http://www.gallery-takamatsu.com>)

申し上げます。

この11年目についての、追加記事の掲載やイベント紹介頁の作成など改訂・追加コンテンツを記しておきます。震災に関わり会員ブログとして、「原発の安全性」への疑問を語るメッセージを掲載しました。また当会ホームページ開設10周年の随想を私が執筆しました。その他、恒例の親睦ゴルフ同好会記事、2014年練習帆船日本丸カレンダー配布記事、そして母校創立130周年記念頁を立ち上げました。この母校創立130周年記念頁はまだまだ未完成ですが、今後取材を重ねながら充実化していきたいと考えています。

ここで恒例ですが、当会ホームページへのアクセス状況について報告します。この原稿を書いている1月までの経過を過去2年間分のグラフで示しました（別掲の図を参照：今年1月は見込みの数値）。昨年7月19日には累積訪問者数が40万人を達成し、11月24日にはのべ閲覧頁数180万頁を突破しました。この1年間での平均として、月間訪問者数3920人、月間閲覧頁数20570頁で推移しており、訪問者数は前々年比・前年比で連続3年減少となりましたが、閲覧頁数では大幅に増加しました。月間2万頁超は、ランドオープン以来では「百万人の大合唱」DVD発売直後の2006年10月に1回あっただけです。掲示板へのロボットによる自動スパム投稿が集中した2007年7月～11月の5ヶ月間に月間

2万頁超がありました。これは異常な状況でしたので除くとして、この1年間の平均で通常の閲覧であったにも関わらず、月間2万頁超は偉業だと感じています。内容を確認すると会報の閲覧が多かったことが判りました。震災後の復興事業が進行していたということもあったのでしょうか、通常より会報へのアクセスが多かったようです。母校旧本館「安積歴史博物館」の震災復興改修工事も昨年2013年9月に完工し、翌10月から一般公開が始まりました。多くの皆様の義援金により、建物だけでなく展示物の復興も進んでおり、会員の皆様に限らず多くのお客様のご来館を待っています。たいへんお世話になりました。復興委員会

に代わりまして、厚く御礼申し上げます。

最後に私ごとですが、昨年春より首都圏を離れて地方への単身赴任をしております。会社員としては最後のご奉公となると思いますが、インターネットはどこにいても日本中いや世界中で回線がつながる限り、閲覧はもとよりホームページの改廃作業もいとも簡単にできるものだと改めて実感しています。毎年の決まり文句ですが、今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みたいと考えています。重ねて当委員会への参加または情報提供を広く会員諸兄にお願い致します。連絡先はホームページをご覧ください。（出光興産(株)電子材料部）



《鎌倉・長谷寺境内の“高山樗牛ここに住む”の碑》

### 協賛広告のお願い

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されております。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。お問い合わせは事務局まで。

弁護士 齊藤 英彦 (69期)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目3番8号  
YKB新宿御苑804号室  
電話 (03) 3356-6677番  
FAX (03) 3356-6678番

古川 清 (63期)



## 平成 24 年度決算報告書

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 3 1 日)

	決 算 額	予 算 額
1 収入の部		
(1) 前年度繰越金	564,972	564,972
(2) 年会費収入	1,082,000	1,300,000
(3) 総会費収入	1,054,000	1,100,000
(4) 協賛広告料	240,000	260,000
(5) 受取利息	38	400
(6) 雑 収 入	31,000	50,000
収入合計	2,972,010	3,275,372
2 支出の部		
(1) 総会懇親会費	1,048,150	1,150,000
(2) 通 信 費	36,800	50,000
(3) 会 議 費	4,000	20,000
(4) 会報作成費	367,290	367,290
(5) 会報発送費	331,533	331,533
(6) 事務消耗品費	143,729	150,000
(7) 母校後援費	0	100,000
(8) 冠婚葬祭費	0	50,000
(9) 支払手数料	43,425	50,000
(10) 人 件 費	400,000	400,000
(11) 交 通 費	1,390	50,000
(12) 名簿編集費	20,000	20,000
(13) ホームページ・広報部会運営費	24,360	50,000
(14) 雑 費	0	100,000
(15) 予 備 費	0	386,549
支出合計	2,420,677	3,275,372
次期繰越金	551,333	0
3 特別会計		
事業準備積立金	1,366,812	
4 財産目録		
(1) 普通預金 (三井住友銀行)		237,002
(2) 定期預金 (三井住友銀行)		1,366,812
(3) 郵便振替貯金		204,092
(4) 現 金		110,239

## 平成 25 年度予算案

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 3 1 日)

1 収入の部		
(1) 前年度繰越金		551,333
(2) 年会費収入		1,300,000
(3) 総会費収入		1,100,000
(4) 協賛広告料		270,000
(5) 受取利息		400
(6) 雑 収 入		50,000
収入合計		3,271,733
2 支出の部		
(1) 総会懇親会費		1,150,000
(2) 通 信 費		50,000
(3) 会 議 費		20,000
(4) 会報作成費		364,140
(5) 会報発送費		316,234
(6) 事務消耗品費		150,000
(7) 母校後援費		100,000
(8) 冠婚葬祭費		50,000
(9) 支払手数料		50,000
(10) 人 件 費		400,000
(11) 交 通 費		50,000
(12) 名簿編集費		20,000
(13) ホームページ・広報部会運営費		50,000
(14) 雑 費		100,000
(15) 予 備 費		401,359
支出合計		3,271,733
次期繰越金		0

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成 25 年 5 月 10 日

会計監査 大 内 博 文  
 会計監査 関 根 健 治

### 会費納入のお願い

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)



## 編集後記

○130周年記念号のイラストは、98期現安高美術科の櫻村俊智先生にお願いしました。先生にはNo.35に続いて2度目のお願いになります。それには“理由”ありでした。櫻村先生が桑野会報43号に寄せている旧本館のスケッチと、その本文の中の“考え方に共感”したからです。曰く「西洋の文化を日本の大工が建てた特異な存在」「安高(生)の普遍の象徴」「旧本館を描く幸せ」大意以上のような意を示され、長期的な絵の題材とする、としています。あの3.11に揺さぶられ、旧本館は“重症”・・・その修復過程をも見守って、今回のイラストとなりました。対象を確かにとらえ、表現する力は抜群です。(74期 高松ゆたか)

○昨年出版した『フクシマが見たチェルノブイリ26年目の真実』が2月、雑学出版賞を授賞しました。また韓国語版も出ることになりました。それにしてもフクイチの廃炉作業は30年後も続くでしょう。胸が痛くなります。(78期 宗像)

○130周年を思う、自分が在校生の時が80周年だから、もう50年も経ったのかと考えに浸っています。久しぶりの丹治節を拝見しました。社会部記者の文章はさすがですね。久保田校長先生の文章にも、懐かしい先生方のお名前が出てきて、つながりを感じました。大内先輩の日本丸の帆船を窓辺に見ながら、年度末の仕事に追われ、仕事を楽しんでいます。(78期 櫻井淳)

○昨年春、辞令を受けて首都圏を離れ地方勤務となった。南へ単身赴任である。2月8日ソチ冬季五輪の開会式当日、首都圏は45年ぶりの大雪となったが、当地では雨は降ったものの雪には無縁で肩すかし。フクシマがまた遠くなくなってしまったという思いで、「ふくしまファンクラブ」に入会したら、会津の「あかべこ」のキーホルダーを送ってきた。会員は福島県内で特典がいっぱいとパンフレットに書いてあったが、行かなきゃ特典は受けられない。昨年書いたが、今度こそはフクシマに行こう。(がっちゃん)

○今回は、創立130周年の安積を記念した特集といたしました。様々な思い・想いを書いて頂きました。原稿を読んだ後に最後に編集後記を書くわけですが、それを。

古川会長の挨拶では、英語について書かれていましたが、これを読んで思い出したことがありました。私が在校していた時に、「失敗 is 母 of 成功」の柿沼良訓先生(現・須賀川桑野会会長)が、‘俺の安積の同級生で、古川清という外務省の外交官がいる’と自慢していました。柿沼先生等の働きかけで、古川清さんの講演会が開かれました。その講演会は「英語」で行われました。こっちはまだまだ英語力も低く、チンプンカンプンでしたが、英語での講演の内容を直ぐに日本語で解説して下さいました。要するに‘国際社会に生きる君たち(在校生)にとって英語の必要性は高く、そして英語を身につけて国際人として活躍しろ’ということを話して下さったのでした。講演をして下さった古川清さんは、もちろん古川清・現東京桑野会会長その人です。

田母神俊雄さんの安積交友録も染み入ります。私の安積交友録も、先輩を真似して一端を紹介。東京桑野会総会・懇親会には、同期91期の沢山のメンバーが来てくれて、一大勢力となっています(笑)。ありがとう、同期!会報にも書いてくれますし、今号にも田原美郷君が美しい文章を寄せてくれました。東京桑野会の他にも、91期同期との交流が続いています。その一つが‘合宿’です。2001年のセンバツ甲子園の際に復活した同期の繋がりが、‘当時の生徒会’のメンバーとのもの。そのメンバー8名で、毎年1回、テーマを決めて泊まりがけで勉強会(お酒付き)をするというものです。東日本大震災以降は、2011年末にスバリゾートハワイアン、2012年秋に母畑温泉八幡屋を合宿場所として実施し、2013年は神奈川在住の氏家誠君と神奈川県に勤務先のある根本孝七君が幹事となって12月に江の島・鎌倉を舞台に実施しました。福島からは村木修君、菅沼孝雄君が参加、喜古昭夫君は京都から参加。私は都道府県最低人気の茨城から参加。菅原一誠君と会田弘君は残念ながら今回は欠席。江の島の岩本楼に泊って、今回は、氏家君と村木君の講演を拝聴。うん勉強になる。中

身? 氏家君は秘密のお仕事、村木君はやばいお仕事をしています、それに関するお話です。同期の友と話している。それを知ることは、自分の行けなかった行かなかった別の人生を体験するようなものです。本当に勉強になるし、だから‘合宿’なんですね。

泊った次の日は、鎌倉めぐり。最初に行ったところは、長谷寺です。長谷寺には、実は安積の偉大なる卒業生の足跡が。久米正雄が住んだことがあり、その胸像があります。そして安積の第一期生 高山樗牛(高山林次郎)の碑があり、‘高山樗牛ここに住む’と彫られています(P.16参照)。高山樗牛は、明治30年代の文芸評論、思想界の‘アイドル’(古川清氏談)で、29歳の時にロンドンへの国費留学が決まった直後に発病し、留学を辞退して療養生活を鎌倉近辺で送りました。療養の甲斐なく31歳で永眠。人生最後の時期、長谷寺に住んでいて、葬儀も長谷寺で執り行われたとのことでした。このヒストリーも勉強になります。ところで根本君、『はやし じろう』じゃないかね、『りんじろう』だかね。(GF91)

【事務局からのお願い】会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されます。住所が変わっていると、折角の会報も戻ってきてしまいますので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さいますようお願い申し上げます(東京桑野会ホームページにも、連絡先を表示しております)。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

『東京桑野会会報』No.36

2014年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒101-0045

東京都千代田区神田鍛冶町3-2

サンミビル7階

新神田法律事務所内

Tel 03-3252-9671 Fax 03-3252-9673

E-mail asaka@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社クタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel 03-3635-4510 Fax 03-3635-4515